

東松島市中学生のフレデンスボー市滞在 「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

日本大震災数ヶ月後のある日、フレデンスボー市から在デンマーク日本大使館に「震災で被災した子どもたちが少しでも楽しい時間を過ごせるようにご招待したい」と連絡がありました。まだまだ復興もままならない状況でしたが、在京デンマーク大使館を通じてデンマークが重点的に支援している東松島市に意向をお伝えしたところ「折角のお申し出なので何とか実現させたい」と市・教育委員会の方々が決断くださり、東松島市の中学生のフレデンスボーでのホームステイが実現しました。日本人会の多くのメンバーが通訳のボランティアで参加、実施されたプログラムは素晴らしいもので、このプロジェクトを通じて、フレデンスボー市と東松島市の交流はその後も続いています。

記：住田智子

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第二中学校 2年 遊佐 龍之介

今回の「デンマーク交流事業」から半年以上前に、デンマークに行くチャンスのきっかけとなった東北、日本に悪夢を見せた東日本大震災がありました。震災直後の苦しさ、今のいろいろな悔しさ、これからの不安すべてを考えても震災直後はどれをとっても良いことは全くありませんでした。それから半年後デンマークへの交流事業のお話を頂きました。いろいろな不安もありましたが、行ってみたいと強い思いと、今までに見たことのない素晴らしいものや学べる機会が自分に来てくれたことはとてもうれしく、活かしたいと思いました。

その決断から約1ヶ月後、ドタバタした1ヶ月でしたがなんとか準備が整いました。飛行機で10時間以上かけデンマークに到着しました。デンマークでは少し時差ボケはありましたが、あったかい歓迎パーティーは僕たちの不安をとり除いてくれました。日本人の交流事業に参加した中学生はみんな自分よりも何もかもがはるか上をいっている人たちでした。このままでは自分もまだまだだなどすごく感じさせられました。また、デンマークの中学生もみんな個性いろいろで自分とはまったくちがうものでした。

それから10日間、みんなと楽しく過ごせました。しかし、そのなかでみなさんに多大な迷惑をかけてしまいました。初日は集合時刻に少し遅れてしまいましたし、他にもサイフを落としたり、電車にお土産を忘れたりと自分の未熟さ、幼さをすごく感じました。

8日後、デンマークとお別れする時、すごく悔しかったです。悲しかったというより悔しかったです。もっとこの8日間を大切に過ごすべきだったと思いました。

あれからさらに2週間ほどたちました。そして、今すごく思うことがあります。それは震災がくれたものは悪夢だけじゃない、僕たちに学ぶチャンスが与えられたと思っています。全員、平等に与えられたと思っています。このチャンスを活かしたならば自分はすごく成長できると思います。これから努力を積み重ね、さらなる上を目指して1歩ずつゆっくり歩んで行きたいと思っています。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第一中学校 2年 岡田 隆斗

僕は、今回デンマークに行かせて頂き、大変有意義な11日を過ごすことができました。特に3つ感じたことがあります。

1つ目は、交流についてです。ぼくは初めて外国でホームステイをしました。緊張も日が経つにつれほぐれていき、慣れた頃には家族のような友達になりました。公式行事以外にも、一緒にいろいろな場所へ行ったり、いろいろな行事をさせてもらいました。そのようにして僕達を楽しませてくれた事がうれしいです。コミュニケーションにはやり方があって、言葉だけではありません。表情や動き、ジェスチャーもうまく使うと表現が豊かになることがわかりました。やり方は何でも良くて、心を通わせようとする気持ちさえあればコミュニケーションが上手になれるんだと思いました。言葉を使うのは确实ですが、勉強しても実践となると難しいです。デンマークの人達と共に様々な活動を行うことで友達になれました。「一期一会」という言葉に考えさせられます。

2つ目は、世界について学んだことです。空港では手続きのやり方、荷物の検査の受け方を覚えしました。デンマークの自然が美しい町並み、広々とした家と幸せな家庭、工夫された社会構築。日本に取り入れたいような面々がたくさんありました。また、「レディーファースト」などの外国の文化に触れましたが、日本も発信できる文化や考え方があるとわかりました。どこの国でも、一人一人が幸せに生きるためのルールやマナー、社会が作られているんだと思いました。

3つ目は感謝の心です。今回のように特別の学びの場、楽しい思い出の場は、多くの人々が作ってくださいました。それに対して僕達がやるべきことは、作ってくださった分学び、思い出を作ること、「ありがとう」の気持ちを表すことだと思います。準備を手伝ってくれた家族、応援してくださった先生方、大使館や役場の方々、通訳してくださった方々、そして国をあげて援助、招待してくださったデンマークの全ての人。お世話になった方々は数えきれません。僕も誰かを助けられる人になりたいです。

この3つは、これからの人生の大きな力となると思います。僕は偶然、予定がなかったので代表になれました。学校では、この経験を生かせるような活動がしたいです。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第一中学校 3年 安田 羽菜

今回は、「デンマーク王国中学生交流事業」という素晴らしい体験に参加させていただきありがとうございました。私は、出発する前、期待と不安の2つの気持ちが混ざっていました。初めての海外への旅、初めての飛行機、初めてのホームステイ。初めての旅で、言葉や文化、生活習慣も異なるデンマークの人達とちゃんとコミュニケーションをとれるか、日本の文化を伝え自分もデンマークのことを学ぶことができるのか。考えれば考えるほど不安のほうが強くなっていきました。しかし、この事業を行うために計画を進めてくださった市の方々、大使館の方々、そして、支援してくれるデンマークの人達がいたこと。自分は校長先生をはじめとする先生方に選んでいただいて貴重な体験ができること、いろいろと準備を手伝ってくれた家族がいたから参加できること、全ての方々に感謝をし、自分にはこの役目があるということを再認識しました。

デンマークに無事到着し、空港や市役所で、私たちがお世話になるホームステイ先や学校、通訳の方々笑顔であたたかく歓迎してくださったときは、とても嬉しくて、もう不安なんて少しもありませんでした。それからの毎日はとても充実していて、学ぶこともたくさんあり、思い出に残る素敵な時間を過ごしました。中でもホームステイ先のお父さんに「ここを本当の家だと思ってゆっくりしてね。」と言ってもらえたときは、本当に来てよかったな、と感謝の気持ちでいっぱいになりました。時間はあっという間に過ぎてしまい、お別れはすぐやって来てしまいました。たくさん涙が出ました。別れることはとてもつらかったけど、この出会いを一生大切に、いつかまた会えることを信じています。この2週間は私の一生の中でとても大きな経験になったと思います。一瞬一瞬に驚きと感動を与えられ、見るもの全てが新しく、視界も変わりました。

こんなに有意義な時間を過ごしたのは初めてです。この体験で学んだことを生かして、次はそれを周りに発信していこうと思います。

この事業に携わった全ての方々に心から感謝しています。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第一中学校 2年 水谷 夏葵

私はデンマーク研修を行い、様々な事を学びました。第一に異国の文化や生活にふれることで、ものに対する考え方や見方が変わりました。例えば言葉のかべがあってもコミュニケーションをとることがとても大切なので、英語やデンマーク語が話せなくても、ちゅうちょせずに積極的に話しかける、ということです。実際、最初のころは上手く英語を聞き取れませんでしたし、正直最終日も完璧なものではありませんでした。身振り手振りで伝えたり、電子辞書を片手に調べたりと、なんとか伝えようとし、伝わったときは嬉しい、の一言でいっぱいでした。このことから、どんなものでも、失敗を恐れずに、積極的にチャレンジしようと考えました。また、失敗でも、聞き間違い、話間違い、誤解があっても、それがすごく笑える内容になり、楽しいコミュニケーションとなりました。

また、日本ではめずらしい素敵なマナーなどもありました。すごく身近に感じたのは、レディーファーストと食事のマナーです。レディーファーストというのは、ただ女性を思いやるというより人を思いやる、という目的の方が強いと感じました。日本もそういう人を思いやる国のはずなのですが、最近薄れてきていると感じます。いつまでも、常識が常識であるのにはどうすればいいのだろうと考えました。また、食事のマナーも最初ははしがなくてどうするんだろうととまどいましたが、ナイフ、フォーク、スプーンに慣れました。食事中も中学生とはいえ、マナーがしっかりしているんだな、と

感じました。

私自身前にも挙げたように、学んだことが多かったのですが、それも含め、成長した気がします。

こんな経験は滅多にできないので、本当に良い研修になりました。また将来が決まっていな私にいろいろな仕事を見させてもらい、こんな仕事もあるのか!!と参考にすることができました。それに、私は英語が嫌いでした。しかし、この研修に行った後も、すごく興味がわき、もっと知りたい!もっと話したいと思えるようになりました。もっともっと勉強して、いつかデンマークの皆さんや、他の英語を話す人達と楽しんで話せるように、これからも勉強したいと思いました。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第一中学校 3年 永沼 一晴

今回のデンマーク研修という初めてづくしの研修でたくさんの方々、たくさん場所、たくさんの体験、たくさんの驚き、たくさんの幸せに出会った中で学んだことは山ほどあります。デンマークの人々の優しい人柄やデンマークの文化、その中で共通していること、そして、一番僕が声を大にして言いたいこと、思うことは「感謝」です。

デンマークの研修ではたくさんの「ありがとう」と「感謝」をする場面に出会いました。まず、初めて行った僕達に優しく接してくれたホストファミリーのみなさん、家では美味しい食事をつくってくれたり、いろんなことを丁寧に教えてくれました。次に僕達のために一生懸命通訳してくれた方々、その他にもエンドラップ高校の生徒たち、デンマークで関わってくれた人すべてに感謝です。また、今回の計画をして下さった教育委員会の方々にもとても感謝しています。

また、今回たくさんの方々と触れ合っていく中で気づいたことがあります。それは「ひたむきに、一生懸命がんばっている姿」はとてもカッコイイということです。

日系デンマーク人の女性の方が働いていました。その方は日本で生まれて、1年ほど前にデンマークに来たそうです。まだ慣れない地でひたむきに一生懸命働いている姿に僕は感動しました。そして僕が帰るとき、その人と目が合いました。その目はとても輝いていました。カッコイイと思いました。僕も研修が終わって学校でも一生懸命がんばろうと思いました。

学校に帰るとクラスの仲間たち、担任の先生が「お帰り!!」と言ってくれました。僕は幸せな人間なんだと、研修に行って帰ってきて改めて思いました。このようなことで僕はデンマーク研修を通してたくさんの感謝、感動に出会いました。最後に、今回デンマーク研修で関わったすべてのみなさんへ、本当にありがとうございました。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

鳴瀬第一中学校 3年 内海 悠樹

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて日本に帰ってきてからもう2週間がたちました。しかし、2週間たってもデンマークの町並み、デンマークの空、そして、デンマークの人たちは今でも忘れられません。

とくに思い出に残っていることが、2つあります。1つは日本人とデンマーク人の普段の会話です。最初は通訳さんがいると聞いていたので安心していましたが、行ってみるとほとんど付いていなかったのがビックリしました。なので、初めの頃は何言ってるかあまりわからなかったけど、徐々に耳がなれてきて言っていることがわかってきました。英語は世界共通だなと改めて思いました。

2つ目はデンマーク人の優しさです。ぼくがホームステイをさせてもらったアナス君のお母さんのハナさんはとてもやさしくて、気の利いた方でした。それは今の日本人が学んでいけないものだなと思いました。

これらの感じた思い出をそのままの思い出にするのではなく、友達や先生、色々な方に伝えていきたいです。そして、最後にぼくが今思うお願いが1つだけあります。それは、この「デンマーク王国中学生交流事業」をこの1回だけで終わらせるのではなく、これからもこの交流を通して東松島市とフレデンスボー市の「絆」を深めていってほしいと思います。

そして、このプロジェクトのために色々な事をしてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

鳴瀬第二中学校 3年 菅原 朝日

私は、この「デンマーク王国中学生交流事業」に参加して、たくさんのことを学びました。

この研修に行くことになった時、最初はデンマークに行ってあっちの人とうまくコミュニケーションがとれるか、他の中学校の人とは仲良くなれるかなど不安なことがたくさんありました。でも研修をやっていくうちに他の学校の人とも仲良くなることができ、このメンバーで参加できてよかったなあと思います。

そして、デンマークに行ってみて感じたことが2つあります。1つ目は、言葉は通じなくても、気持ちが伝わればコミュニケーションはとれるということです。最初の2日間くらいは通訳さんに手伝ってもらったり、家でもなかなか話せませんでしたが、ジェスチャーをしたり、何となく言うてることが分かってきて、だんだんコミュニケーションがとれるようになりました。ホームステイ先では中学生らしい話もできてよかったです。

2つ目は、デンマークの人達はみんな心があたたかくて素直な人が多いということです。ホストファミリーの人たちだけでなく、みんなが席をゆずってくれたり、分からないことを丁寧に説明してくれました。

お別れの日、デンマークの人が“一期一会”と書いてくれたのが一番心に残っています。改めてこの意味を実感しました。正直ずっとデンマークにいたいなあと思いました。この研修で学んだことをこれからの生活などで生かして生きたいと思います。

そして、将来またデンマークに行きたいです。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第二中学校 3年 前田 花歩

私はこのデンマーク王国への研修が終わってまず思ったことは楽しかったということです。そして、また行ってみんなに逢いたいと思いました。だから私は少しでもデンマークの友達と交流するために、

Facebookを始めました。Facebookでは、たまにですが英語でメールしています。英語でメールは難しく、すごく簡単な会話しかできないので、もっと勉強しなきゃいけないと思いました。

私は、このデンマーク王国への研修でたくさんのことを学んでくることができたし、伝えてくることもできました。まず日本とデンマークとの生活習慣が違うということ、デンマークの中学生は、けっこう自由ということ、見た目はすごく大人で驚いたけど、話してみたり、一緒に活動すると、中学生だなあと感じたことなど、たくさんが発見がありました。そして、たくさん日本の文化、言葉、食べ物なども伝えてくることができ、良かったと思います。

私が帰って来て、やらなきゃいけないことを考えていました。それは、よりたくさんのことをみんなに伝えるということだと思います。私は友達によりたくさん何気ないことまで、写真などを使って休み時間とかに話しました。私の話を聞いて友達は、笑ったり、驚いたりしていました。あと私がお土産に買っていった、すごくまずいグミを食べて「こんなまずいグミをデンマーク人は、おいしいって言うの!?!」とっていました。そのグミだけはみんなおいしいとは言ってくれませんでした。でもわたしもおいしくないと思いました。

最後に、このデンマーク王国中学生交流事業に参加させてくれたことに感謝します。本当にありがとうございました。この貴重な体験を無駄にしないように精一杯頑張ります。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第一中学校 3年 黒沼 健郎

私はデンマークで、ホームステイなどの交流を通じて、多くの事を学んできました。初めて出会う人と共に生活をし、日本と異なる文化にとまどいの連続でした。私はこの事業に参加する前、このような目標をたてました。それは、デンマークで出会うことができた全ての人に感謝の気持ちをもって接するということでした。

そして研修中、常にありがとう、「Thank you」の言葉を忘れずに過ごすことができました。特に研修最終日、ホストファミリーに、今までの感謝の気持ちが強くなって、心のもった「Thank you」と、いうことができました。常に感謝を心がけていましたが、本当に心から感謝を表すことができました。私は、言葉とは、本当に大切なものだという事を、再び学び直すことができました。

また、たくさん文化と出合いました。特に驚いたのがレディーファーストです。言葉は聞いていましたが、男性は女性に先をゆずるなど、日本ではあまり見ない光景でした。さらに、朝食はパンだとは知っていました。しかし、パンをナイフやフォークを使って食べるという文化に驚きました。ナイフやフォークを使い慣れていないので、とてもぎこちない食事でしたが、だんだんと慣れて、会話をしながら使えるようになりました。そんな中、ホストファミリーの人にこう言われました。「私たちの文化は、あなたたちとは違う、けど、どちらとも良さがある。」私は、その通りだと思いました。日本とデンマーク、違うからこそいいんだとホストファミリーに

気づかせてもらいました。

今回の研修は成功だったと私は思います。ホストファミリーとも仲良くなり、たくさんのお城も見学しました。文化を伝え、伝えられ、こうして交流が深まっていくと、うれしく思います。私たちは、はじめましてと出会うことができ、また会いましょうと別れる事ができました。楽しい気持ちで帰ってこれました。成功だと思います。

最後に、これまで学んだ感謝の心、文化の良さを大切に、学校生活に生かしていきたいと思えます。準備から進めて成功させてくださった皆さん、父さん、母さんに感謝します。本当にありがとうございました。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第二中学校 3年 高橋 ちはる

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて、1番に思ったことは“楽しかった”ということです。初めは、不安だらけで楽しむことなんてできないと思っていました。ですが、同じ時間を過ごしていくうちだんだん楽しめるようになりました。言葉が分からず、あたふたする場面も何度か、. . . いや何十回か、. . . 文化の違いに驚かされる場面もありました。生活の面でいうと、部屋の中でくつをはく時とはかない時があることです。その使いわけも今でも分かりませんが、驚きました。食文化でいうと、ゆで卵の食べ方です。スプーンで食べるなんて考えもしませんでした。

デンマークの友達、一生の友達になるだろうと思います。宝物です。年下とは思えない大人っぽさ。たまに見せる無邪気な笑顔。もっと英語を勉強してから行きたかった、. . . と思いました。ペラペラに話すことができたら、もっと友情も深まったはずです!! 友達はなろうとしてなれるのではなく、気づいたら友達になっていた、という感じでした。最初は10日間なんて長いだろうと思っていました。ですが、終わってみれば短くてもっとデンマークにいたいと強く思いました。一緒に作ったパンケーキ、大人の味がしたワイン、真っ黒いグミ、. . . おいしい思い出でも苦い思い出でも全部ふくめてとても楽しかったです。

大人になって英語がペラペラになるまで勉強したら、また行きたいです! ホームステイをさせてもらったマチルダのお家に行ってみたり、今回一緒に行った東松島の仲間と行ってみたいです。また、日本に招待して、今度は私たちが日本の良さを伝える。ということもしてみたいです。様々な思い出があります。私たちにとってとても貴重で素晴らしい時間となりました。

最後に、この機会をあたえて下さった皆様、通訳の方々、ホームステイ先の家族の方々、デンマークのたのもし仲間たち、私たちを支えてくださった全ての方々に感謝しています。本当に本当にありがとうございました。感謝の気持ちを文字で、言葉だけで伝えるだけでなく、これからの東松島、宮城、東北で生きる人として恥ずかしくないよう、行動で感謝を伝えていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

鳴瀬第二中学校 1年 大槻 有矢

僕は鳴瀬第二中の1年生の代表として、この「デンマーク王国中学生交流事業」に行かせていただき、うれしさと、ありがたさでいっぱいです。まだ入学して半年ですが貴重な体験をさせていただきました。

僕がこの交流事業に参加して思ったことは、家族や友達がいることのありがたみを改めて実感しました。

はじめは、デンマークに行って友達ができるかどうか、さらにホームステイ先の人と仲良くできるかとても心配でした。しかし、デンマークの人が積極的に話をしてくれて、いつのまにか普通に話をしたりと、自然と仲良くなっていました。ホームステイ先では、僕はまだ1年生なのでなかなか英語が話せず、聞き取れないから、海星先輩には大変な迷惑をかけてしまいました。それでも、一日一日と日がたつにつれて、徐々に英語が聞き取れるようになり、最後の日には、自分一人で話をすることができました。デンマークにいる間、日本の友達にも会いたかったのですが、ずっとデンマークにいてもよかったような気がしました。

ホームステイ先の方は、僕たち日本人を本当の家族のように接してくれました。自分の家の子供のように服を洗濯していただき、朝・昼・夜のご飯もつくってくれました。日本にいるお母さんもお父さんも自分のためにやってくれることを当たり前のように思っていました。今回の体験を通して、とてもありがたいことだと実感しました。

この交流事業は、僕にとって一生忘れられない思い出となります。この交流事業で学んだことは中学校で伝えていきたいです。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

鳴瀬第一中学校 3年 高橋 那月

私が「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて思うことは「感謝」ということです。私がこの事業を通して学んだこと、得たものはたくさんあります。そのような機会をつくっていただいた方々に感謝しています。それから、なにより感謝しているのは10日間もの間お世話になったホストファミリーの方々です。言語も違い戸惑うことが何度もありましたが、みなさんととても優しくだったので安心してデンマークの生活を楽しむことができました。

私がデンマークで学び、得たものはたくさんあります。その中で1番嬉しく思ったことは、デンマークの友達ができ、その友達と共に思い出をつくれたことです。一緒に学校へ行ったり、遊んだり、ご飯を食べたり、なにげないことでもひとつひとつが大切な思い出となりました。私は津波で家が流され、悲しくなりました。しかし、このデンマークとの交流事業に参加し、デンマーク人と毎日楽しく充実した日々を送ることができたことで、気持ちが明るくなりました。デンマークで行った様々な活動は、私を前向きにさせてくれたのです。わたしは中学3年生なので受験をひかえています。日本全体を見てみると復興に向けてみんなが立ち上がろうとしています。私はこの交流事業で何事にも頑

張ろうという意欲がわいてきました。今、中学生の私にとってできることは、勉強だと思います。たくさん学んで自分のため、日本の復興のために頑張りたいです。私はあまり英語を話すことができないので、デンマーク人と話したいことがあってもなかなか言うことができませんでした。これからの時代は絶対英語が必要になってくると思います。私は英語を話せるようになり、国際的な仕事をしてみたいと思うようになりました。

最後に、この事業を企画してくださったみなさま、本当にありがとうございました。この貴重な経験を将来に生かし、私たちは世界中の人々から支えられているんだということを忘れずに前へ進んでいきます。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第二中学校 2年 田中 遙久

僕は、デンマーク王国中学生交流事業を通してたくさん学んだ事があり、貴重な体験になりました。デンマークで過ごした10日間の思い出は、本当に充実していて、一生の宝物です。何よりデンマークで行った活動は、日本では絶対行えない魅力に満ちあふれていました。そんな中で、心に深く残っていることが4つあります。

一つ目は文化の交流です。僕たちは、ファミリーと過ごしている時に習字を教えました。僕たちが見本を見せると、Jacobも真似しながら習字を楽しんでくれました。Jacob以外のデンマークの方々も楽しそうにカタカナで名前を書いていました。また、剣道も実によい交流だったと思います。僕は、初めて剣道の型を見ました。日本人から見ても素晴らしいものだったと思います。気のすごさが、デンマークの方々にも伝わったと思いました。

二つ目は、「心あったかイートころ運動」の実践です。僕の学校は、「2の日運動」を行っています。落ちていたゴミを拾うなど、周辺の人を快くする活動です。僕は、デンマークで倒れていた自転車を直しました。ほんの小さな行動でしたが、「心あったかイートころ運動」を実践できたと思います。この事を、これからの学校生活に活かしたいと思っています。

三つ目は、ありがたいと思ったことです。この事業、向こうの方々の好意で成り立っていたので、とてもありがたかったと思っています。また、ホームステイ先のファミリーやフレンドにも英語が伝わらなくて、本当に迷惑をかけてしまったこともありました。それでも、いつも笑顔で迎えてくれてありがたいと思っています。人間性もとても優しく、フレンドリーに接してくれました。デンマーク1日目は、僕のがちがちに緊張していましたが、笑顔で話しかけてもらいました。本当に、何回ありがとうと言っても足りないぐらいです。人を思いやる気持ちの大切さを学びました。

四つ目は、今後の交流です。今はeメールやFacebookで交流を続けています。たくさんメールが来てとても感激しています。このまま交流を続けていきたいと思っています。僕はこの事業に参加し、心から良かったと思っています。デンマークで過ごした10日間をこれからの学校生活、部活、生徒会などで活かしたいと思っています。日本でも頑張っていきたいと思っています。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

鳴瀬第二中学校 2年 鈴木 海星

今回、デンマークの交流事業はとても充実したものでした。行く前は話したことのない外国人とのホームステイやコミュニケーションなど不安を抱くこともあり、先が見えない状態でしたが、デンマークの方々の心遣いと優しさにとっても嬉しく思いました。

学校に果物を持っていったり、私服生活など文化の違いを感じましたが、この違いも日本の良い所、デンマークの良い所などを見つける基準となり様々な事を学びました。

日本語は「いただきます」「ごちそうさまでした」などを教えて、「Tak」「Ya」などのデンマーク語を教えてもらいました。

日本との土地面積の差やレンガ造りの建物にたいいてい一家に一つあるトランポリン、食文化など今までにない刺激を受け、良い経験になったと思います。

言葉が完全に通じなくても共感出来る事や、同じ事をして笑う事も多くでき、別れが本当に苦かった事がとても鮮明に思い出せます。ホームステイの方々の優しさ、気遣いを受けたり、買い物をしている時、オススメを教えてくれたり、デンマークの人達には心から感謝しています。

この体験が、自分の人生の中のどこかで、力になる事に期待したいと思います。図々しいですが、また行けたらと願います。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

鳴瀬第一中学校 3年 千葉 加奈恵

デンマーク王国中学生交流事業を終えて今思うことは、この事業に参加することができて本当に良かったということです。最初に参加できると聞いて、私は「海外に行ける!!」ということしか頭になくて、舞い上がっていました。しかし、事前研修で木村教育長の話聞いて、うかれていたんだなあ...と気付かされました。それからは、デンマークに行ったら何をしよう。ちゃんと日本の文化を伝えることができるだろうか?そんな事を考えるようになりました。楽しみな事もあったけど、やっぱり不安な気持ちの方が大きかったです。一番不安だったのは、ホームステイ先でうまくやっていたのかなあということでした。

デンマークに着くまでは不安だったけど、ホームステイ先の家族に出会って不安な気持ちがなくなりました。デンマークの方々は、笑顔で私たちを受け入れて下さって、本当に嬉しかったです。

それからは、城の見学や、エンドラップ校との交流、コペンハーゲンの観光など、色んな体験をデンマークの方々としてきました。デンマークの文化や歴史に触れて、知らないことがこんなにあるんだなあと思いました。自分の世界が広がったような気がします。

ホームステイ先の方たちは本当に優しい人たちでした。しかし、たくさん気をつかってもらって、なんだか申しわけない気持ちにもなりました。聞きたい事はたくさんあるのに、英語でどう表現したらいいかわからず、結局なにも聞けないという事が多くありました。もっと英語がしゃべれたら．．．という気持ちがいっそう強くなりました。もっと英語を勉強して、またデンマークへ行きたいです。その時はホームステイ先のみなさんと前よりも色々なことをたくさん話したいです。

「デンマーク王国中学生交流事業」を終えて今思うこと

矢本第一中学校 3年 茄子川 和

帰国してすぐはなかなか頭の整理ができず、日本の生活に戻るのに必死でした。慣れるまでにほんの少しの時間を要する点では、デンマークも日本も変わりません。

私はデンマークでの交流事業を通して、自分の一つの性質に気づきました。私は多分人種に対する意識が薄いのだということです。日本人とデンマーク人では多少性質に違いがありますが、今回の事業ではあまり2ヶ国間の交流という感じは受けませんでした。ただ住む場所が異なる中学生が友達になった、という感覚が残っています。そのために土屋さんが奔走してくださり、たくさんの方のサポートの方が努力してくださり、空港で何回も何回もチェックを受けたのかと思うと、国籍の違いとは不思議なものです。ヨーロッパは一つ、というEUの考えがとても画期的であることを知りました。

やはり言葉がなかなか通じないのは不便だと思いました。日本の生活と一番違うところは、やはり一語一語を脳内で変換し、ときに電子辞書をはさんで会話をしなければならないところだと思います。もっとたくさん言語が使えるようになるか、または英語でも手話でも何でも良いので世界共通の会話法が欲しい、というのが今一番思うことです。

また、私は日本に帰って来てから、デンマークはやはり遠い国だと実感しました。というのも、日本で私が勉強や部活動に追われている間、デンマークの事を思い出す機会は段々減ってきているからです。もちろんデンマークでの経験も会った人たちも忘れてはいません。しかし、Eメールもまだしていませんし、繋がりを持ち続けるに至っていません。できるだけ早く連絡を取ろうとしているところです。好きなときに会いに行けないので、その遠さを改めて知らされます。

いつかまたデンマークに行って、ヘリーネたちとたくさん話をして、更には日本とデンマークがもっと近い国になるために、これからの行動が大切になるんだなあと思います。ホームステイは、これから私たちが起こしていくだろう行動の、大きなきっかけでした。